

委員からの主な意見	総合戦略への反映状況
<p>酒田港についての記載があるが、港湾の管理者は県。酒田市だけでどうにかなる話ではない。県と一緒に取り組んでいく必要がある。近く、遊佐町沖に洋上風力が建設されるというような検討・研究がされているが、洋上に何十本も風車が立つことになる。現在、秋田沖でも計画が進んでおり、年間約3500億円の売電額が見込まれると聞いている。酒田港で実施しようとした場合、県と一緒に実施する企業を誘致する必要がある。漁業権が絡むので、漁業者が非常に大切なポジションにいるわけだが、漁業者が酒田市の未来のために、風力発電を入れるという判断を将来的に下した場合、酒田港の規模の小ささは問題。酒田北港のキャパシティは小さい。いざというときに風車が組めない、運べない、大型船が入れないということがありえる。酒田市だけが頑張っているものではないので、県とのパイプを太くして対応していただくことが、人口増に直結すると思っている。（後略）</p>	<p>【反映先】 I-1-(2) 港の物流機能を活かした産業競争力の強化 ○地域と協調した民間洋上風力発電の整備に向けた検討 ・酒田港のエネルギー基地としての拠点化に向けた取り組み</p> <p>※ご指摘のとおり、山形県と連携して検討を進めます。また、国・県に対して、引き続き、酒田港の機能強化について要望していきます。</p>
<p>園芸農業においては後継者、労働者不足が生じており、スマート農業に踏み出すべきだろう。産業を維持するために、将来に先送りするわけにはいかない。また、酒田市の場合、農業と食をうまく結び付けられていない点が課題と捉えている。</p>	<p>【反映先】※スマート農業の導入 I-2-(1) 夢があり、儲かる農業の振興 ○スマート農業の推進 ・未来型「人づくり・土づくり・米づくり」システムの構築 ・酒田発稲作農業変革ストーリーの発信 ・ICT・AI農業研究ステーションの開設</p> <p>【反映先】※農業と食の結びつき I-1-(1) 新たな産業やビジネスの創出、産業力の強化 ○産業振興まちづくりセンター（サンロク）による総合的な産業振興 ・マッチング支援、ビッグデータの活用、RPAの導入による生産性の向上 I-2-(1) 夢があり、儲かる農業 ○農商工親連携の推進 ・農商工連携による新たな商品開発やサービス企画の創出</p>
<p>鳥海山は非常に貴重な財産と考える。登った人は必ずファンになるくらいで、リピート率も高いと聞くが、登山客は秋田側に流れているのではないか。この辺の人の流れを升田地区の美しさを生かしながら、八幡側に持ってくるのができないか。</p>	<p>【反映先】 II-3-(1) 観光の振興、交流およびシティプロモーションの推進 ○酒田観光戦略推進協議会における誘客推進 ・鳥海山・飛鳥ジオパークの登録を強みとした観光資源の活用 IV-1-(6) 八幡、松山、平地域と飛島の地域力強化 ○鳥海山・飛鳥ジオパークの活用 ・鳥海山・飛鳥ジオパーク関連イベントの充実とジオガイドの養成、ビジターセンターの整備</p>
<p>林業においては、北港にバイオマス発電が立地、新庄市に木材加工場ができたこと等により、5年程前から増産傾向にあり、今後もその傾向は続くだろう。他方、雇用を増やそうと思ってもなかなか確保できない状況だが、企業側の責任として、IoTの導入等により若年層の雇用に結びつけることが可能と考える。</p>	<p>【反映先】 I-1-(1) 新たな産業やビジネスの創出、産業力の強化 ○産業振興まちづくりセンター（サンロク）による総合的な産業振興 ・マッチング支援、ビッグデータの活用、RPAの導入による生産性の向上 I-3-(1) Society5.0を見据えた「働き方改革」の推進 ○ICT（情報通信技術）の社会実装 ・スマート社会推進のためのアドバイザーチームの設立</p>
<p>労働協定が結ばれていない、最低賃金が守られていないというような市内企業も一定数あるという現状がある。労働環境をきちんと整えることにより、安心して若者が働けるようになるのではないかと。</p>	<p>【反映先】 I-3-(2) 雇用のミスマッチ・人手不足の解消 ○適正な労働環境の確保 ・長時間労働の是正、育児休暇等の取得促進、多様な働き方の実現に向けた意識啓発</p> <p>※労働法規の遵守は、当然になされるべきものであり、引き続き、市ホームページ等を通じた意識啓発に努めます。</p>
<p>I-1-(3) 「多様な人材の活躍促進」の中に位置付けられた「『日本一女性が働きやすいまち』に向けた取り組みの推進」をもっと前面に押し出すべき。</p>	<p>【反映先】 I-3-(3) 多様な人材の活躍促進 ○「日本一女性が働きやすいまち」に向けた取り組みの推進 ・企業訪問、女性活躍推進市民フォーラム、サンロク女子会等の開催等による意識啓発</p> <p>※総合戦略上の柱立て・位置づけはこのままとするものの、意識啓発に関する情報発信、具体的な取り組みについては、女性活躍推進懇話会での意見も伺いながら強化していきたいと考えています。</p>

委員からの主な意見	総合戦略への反映状況
<p>婚活支援については、他自治体の先進事例を取り入れるなど、ぜひこれまでとは違う手法をみつけて欲しい。今までのようにやっても効果はあがらない。</p>	<p>【反映先】 III-1-(1) 結婚意欲が高く婚活を実施している独身者に対する支援 ○結婚サポートセンター等による支援 ・結婚サポーターや結婚推進員による個別支援、出会いイベントや結婚セミナーの実施 ・やまがた出会いサポートセンターへの参画 ・民間との連携による異業種交流会等の実施 III-1-(2) 婚活を実施していない独身者に対する支援 ・民間等と連携した自然な出会いの場の創出</p> <p>※先進事例や新たな手法について検討します。</p>
<p>「ぎゅっと」は、ネウボラの考え方を取り入れたもので、期待していたが、情報が全然入ってこない。子育て世代では知らない人が多い。屋内児童遊戯施設も喜ばれてはいると思うが、どういった層の声を聴いて整備していくのか。駅前再開発もそうだが、市広報で呼びかけても若い世代は市広報を読まない。SNS等での情報発信に注力し、子育て世代のリアルな声を聞いて取り組んで欲しい。</p>	<p>【反映先】 III-2-(1) 子どもを産み育てやすい環境づくり ○親子の遊び場づくりなど育児環境の整備 ・ソフト事業実施を伴う屋内型児童遊戯施設の整備検討</p> <p>※SNSなど若い世代に対応した媒体や機会を通じて、現在子育て中の親などから、当該施設のあり方などについて意見を聴いた上で整備を進めています。</p>
<p>賃金について、地方だから安いのが当たり前という先入観が強があるが、車、スマートフォン等、首都圏と同じ値段である。地方でも賃金が首都圏より高いということもあってしかるべき。では、賃金が高い仕事どうやって創出するか。これまでの産業は、地場での事業展開が主だったが、インターネット環境が整った現在、若い世代は、地域外や海外の情報にアクセスすることができ、外に向けた事業展開が可能となっている。例えばFacebookは2004年に創設され、15年で世界規模の企業に成長した。インターネットを使った事業はそのような可能性を秘めており、まち全体を挙げて起業支援、チャレンジする人を増やしていく必要があるものとする。単にお店をやってみるというようなことではなく、アイデアを形にする教育が必要。また、スマホを活用したビジネス等を支援していくような仕組みがあればよい。</p>	<p>【反映先】※起業支援、チャレンジ促進 I-1-(1) 新たな産業やビジネスの創出、産業力の強化 ○産業振興まちづくりセンター（サンロク）による総合的な産業振興 ・マッチング支援、開業支援、販路開拓支援</p> <p>※従来の店舗開業に対する支援に加え、アイデアをビジネスにつなげる起業支援にも取り組みます。また、教育という観点では、東北公益文科大学、市内高等学校とも連携を図りながら、どのような取組みが可能か検討します。</p> <p>【反映先】※スマートフォン活用ビジネスへの支援 ○産業振興まちづくりセンター（サンロク）による総合的な産業振興 ・マッチング支援、ビッグデータの活用、RPAの導入による生産性の向上</p>
<p>観光について、酒田市は宿泊が一番の課題。また、食事・歴史・自然等、総合的にまとめたプロモーションが必要。市がやっていることを市外の方はもちろん、酒田市民が知らないことも多い。外部からの視点も入れながらストーリーとしてまとめていくことが必要ではないか。</p>	<p>【反映先】 II-3-(1) 観光の振興・交流およびシティプロモーションの推進 ○酒田観光戦略推進協議会における誘客推進 ・既存イベント、まちあるきツアー等のブラッシュアップ</p> <p>※酒田観光戦略推進協議会において、外部からの視点も入れたストーリー性のある観光プロモーションを行います。</p>
<p>子育て関連事業を展開していて、酒田市に転動して来た方々と関わる人が多いが、人柄、食べ物、自然等、口々に酒田はいいところだと言う。そこは自信を持ってよいのだと思うが、せっかく港があるのに、その近くに親子で遊ぶ場、楽しめる場が無いのはもったいないという声もよく聞く。</p>	<p>【反映先】 II-3-(2) 「港」発の交流による賑わい創出 ○みなとオアシスを活用した賑わい創出 ・みなとオアシスマつり等の開催 ・港の魅力を高めるための施設の機能強化の要望</p> <p>※遊具等の設置された本港地区の緑地や展望台のある北港地区の緑地など、親子で遊ぶ場が整備されています。</p>
<p>近年、中町にマザーズジョブサポート山形※2が設置され、子供をみてもらいながら、就職活動ができるようになり、女性が働きやすいまちに近づいているものと思う。他方、さまざまなスキルや社会経験を持っているにも関わらず、子育てによってキャリアが途切れてしまい、悶々としているママも多く、非常にもったいないと感じているところ。シルバー人材センターのような、「ママ人材センター」があれば良いと思う。</p>	<p>【反映先】 I-3-(1) Society5.0を見据えた「働き方改革」の推進 ○産業振興まちづくりセンター（サンロク）による総合的な支援 ・テレワークを活用した就労の推進</p> <p>※「ママ人材センター」の設置に向けては、既存スキームとの重複など課題整理が必要と考えますが、テレワーク推進又はフリーランスで働く方の活躍に資する施策として反映します。</p>

委員からの主な意見	総合戦略への反映状況
<p>結婚支援については、表立った婚活とわからないような、後ろから背中を押すような仕組みが有効ではないか。例えば、まつりを活用するのはどうか。村山市の「むらやま徳内まつり」は、もともと始まったきっかけとして、婚活の要素があったと聞く。若い人たちが楽しめるイベントとして、セクシーさ、スター性というものを重視し、自然な出会いに繋がるとのこと。酒田市の場合、夏に甚句流しを実施しているが、担い手の高齢化が進んでいるように思う。婚活の機会として活用してはどうか。また、自然な出会いの創出に向けては、スポーツ愛好会等への助成を検討してもよいのでは。ジオパークの取り組み等とリンクしてもよい。さらには、同級会も活用できないかと考える。現在、民間有志で三十路式が開催されているところだが、特に若い世代の市が支援していく仕組みがあってもよい。そういった情報を届けるためにも、例えば、<u>中学校単位での情報発信のツールを整えることができないか。学校卒業の時点で、メールアドレスやツイッター等で情報を受け取ることができるようにすれば良いと思う。</u></p>	<p>【反映先】 III-1-(2) 婚活を実施していない独身者に対する支援 ・民間等と連携した自然な出会いの場の創出</p> <p>※甚句流しや同級会の活用、中学校単位での情報発信についてのアイディアは、検討していきます。</p>
<p>出生数が増加傾向にあるフランスでも、かつて家事育児は女性がするものとされてきた。ただ、その次の世代を担う子どもに対し、<u>育児家事は男女がシェアすべきものという教育を実施したことで、男性が積極的に関わりをもつようになった</u>とのこと。長い視点での話にはなってしまうが、重要な取り組みである。</p>	<p>【反映先】 III-2-(2) 仕事と生活の調和の促進</p> <p>○家事・育児への男性の参画の推進 ・男女が共同して家事・子育てを行うことの意義や喜びを理解するための学習機会の充実</p>
<p>創業して終わりではなく、創業後の専門家からの助言等を受けられるようにすべき。伴走型の支援が重要である。</p>	<p>【反映先】 I-1-(1) 新たな産業やビジネスの創出、産業力の強化 ○産業振興まちづくりセンター（サンロク）による総合的な産業振興 ・マッチング支援、ビッグデータの活用、RPAの導入による生産性の向上 ・開業支援、販路開拓支援による新たなビジネスの創出</p> <p>※ご指摘のとおり、創業後の伴走型支援が重要であり、サンロクでの支援と合わせ、酒田商工会議所による中小企業診断士等の専門家派遣事業の活用を促します。</p>
<p>移住に向けては、酒田に移住した場合のメリット、例えば住居や空き家の情報、働く場の情報発信の仕方を考えるべき。現状の記載では<u>首都圏に向けたPRに取り組む</u>ようだが、<u>仙台圏や山形市周辺</u>もありえるのではないかと。</p>	<p>【反映先】 II-2-(1) 総合的な移住支援の継続とターゲットに合わせた情報発信 ○移住検討層に対するターゲットに応じた戦略的な情報発信 ・移住専用サイト、メディアの活用による積極的なPR</p> <p>※庄内地域以外に居住する方を対象としており、仙台圏や山形市周辺に特化したPRを拒むものではありませんが、まち・ひと・しごと創生法の理念を鑑み、引き続き、戦略的な情報発信をしていきます。</p>
<p>観光について、ただ山居倉庫に行って終わりではなく、<u>地域の方と交流していきような取り組み</u>も考えるべき。</p>	<p>【反映先】 II-3-(1) 観光の振興・交流およびシティプロモーションの推進 ○酒田観光戦略推進協議会における誘客推進 ・既存イベント、まちあるきツアー等のブラッシュアップ</p> <p>※関係人口の創出につながる観光・交流プログラムについて検討します。</p>
<p>育児世代の働き方について、事業主の理解が非常に重要だ。</p>	<p>【反映先】 III-2-(2) 仕事と生活の調和の促進 ○ワーク・ライフ・バランスの促進、就労環境の改善に向けた啓発 ・働き方改革などに関する企業向けセミナーの実施</p>
<p>保育士不足が大きい課題となっている。酒田でも東京でも基本的には同じ仕事内容。酒田市で働くより1.5～2倍の収入が見込めるとなれば、若い世代が首都圏に行くのは当然。酒田市に戻る人はわずかである。</p>	<p>【反映先】 III-2-(1) 子どもを産み育てやすい環境づくり ○地域の実情とニーズに応じた子育て支援の充実 ・保育所、学童保育所等の施設整備及び保育士等の人材確保</p>
<p>中小企業においては人材の確保が大きな課題。求人を出しても応募がないと聞く。また、仮に採用できても求めているスキルと合わないという理由ですぐに離職してしまうという状況もある。企業側でも新卒・中途採用問わず、<u>人材育成の必要性は認識しているが、特に経営が厳しいような中小企業では、そこまでの投資ができないのが実情である。大企業ではきちんとした教育プログラムあって、社員は段階に応じてスキルアップすることができるが、中小企業ではそこまでできない。商工会議所等で開催するセミナーや研修に従業員を出席させる余裕がないという声も聞く。どちらが先かという議論にはなるが、経営そのものが良くならぬと人材の確保も進まないのが実情ではないか。</u></p>	<p>【反映先】 I-3-(2) 雇用のミスマッチ・人手不足の解消 ○酒田雇用創造プロジェクトによる安定雇用の創出 ・地域内企業を掲載した市内企業ガイドブックの作成（市内高校等に配布） ・市内での合同企業説明会の開催 ○U I J ターン人材バンクによる就職のマッチング ○人材不足解消に向けた市内企業への支援 ・就職サイト、人材紹介サービスの利用に要する経費への助成</p>

委員からの主な意見	総合戦略への反映状況
<p>大都市近郊と事情は異なるが、<u>テレワーク等さまざまな手法を検討していくべき</u>と考える。</p>	<p>【反映先】 I-3-(1) Society5.0 を見据えた「働き方改革」の推進 ○産業振興まちづくりセンター（サンロク）による総合的な支援 ・テレワークを活用した就労の推進</p>
<p>酒田市のファンを増やすため、多くの人から来てもらうことを考えたときに首都圏からの交通費が高いということが最大のネックとなっている。LCCも就航したが、ある程度の日程が取れないと使用しづらいダイヤ。インバウンドも考えると、<u>訪日外国人が多く使用するジャパン・レール・パスは、酒田駅でも利用可能なはずなので、そこを活用したアプローチも検討してはどうか。</u></p>	<p>【反映先】 II-3-(1) 観光の振興、交流およびシティプロモーションの推進 ○酒田観光戦略推進協議会における誘客推進 ・既存イベント、まちあるきツアー等のブラッシュアップ ○インバウンド観光の促進</p> <p>※ジャパン・レール・パスを活用した酒田駅発着のインバウンド観光のアイデアは、酒田観光戦略推進協議会等において検討していきます。</p>
<p>外部から企業を引っ張ってくるのはなかなか難しいことから、地元企業でいかに安定した雇用を確保するかが大切となるが、市が全業種すべてをリードするのは難しい。産業界を挙げて魅力ある企業づくりに取り組んでいく必要があるが、<u>ICTを活用した最新のシステムを取り入れるなどし、若い世代を取り込んでいくことが大きなポイント。市から、そういった取組みへの支援があると良い。</u></p>	<p>【反映先】 I-1-(1) 新たな産業やビジネスの創出、産業力の強化 ○産業振興まちづくりセンター（サンロク）による総合的な産業振興 ・マッチング支援、ビッグデータの活用、RPAの導入による生産性の向上</p>
<p>移住者、観光客の増加に向けては、<u>その時々で考えられるもっともフレッシュなツール、現在でいえばスマートフォン等を見据え、酒田の魅力を発信する必要がある</u>。また、若者の定着を考えると、酒田に来て自分のスキルを活かす場所があるかが重要。<u>収入については首都圏より低くても酒田では暮らしていけるという側面もあるので、その辺りも情報発信できれば良い。</u></p>	<p>【反映先】※スマートフォン等を見据えた魅力発信 II-3-(1) 観光の振興、交流およびシティプロモーションの推進 ○酒田観光戦略推進協議会における誘客推進 ○インバウンド観光の促進</p> <p>※さかたさんぼ（酒田市日本語版観光オフィシャルサイト）、サカタシティドットコム（酒田英語版観光オフィシャルサイト）のどちらも、スマートフォン対応となっています。</p> <p>【反映先】※収入が低くても暮らしていけるという情報発信 II-2-(1) 総合的な移住支援の継続とターゲットに合わせた情報発信 ○移住検討層に対するターゲットに応じた戦略的な情報発信 ・移住専用サイト、メディアの活用による積極的なPR</p>
<p>東根市、天童市は子育て支援等にいち早く取り組み、人口を維持することができている。<u>保育料の無償化等、子育て環境を整えることは、一時的には有効かもしれないが、長期的な視点で継続的な対策を検討することも必要ではないか。</u></p>	<p>【反映先】 III-2-(1) 子どもを産み育てやすい環境づくり ○妊娠・出産・子育てに対する不安や負担感の解消</p> <p>※不安・負担感の解消に資する取り組みについて、総合的かつ継続的に実施することが重要と考えます。</p>
<p>移住者・観光客が、わざわざ酒田市に来るドラマチックな理由を創出すべき。<u>日本酒やラーメン等の活用が考えられる。ラーメンだけで人が呼べるような喜多方市のような展開は考えられないだろうか。</u></p>	<p>【反映先】 II-3-(1) 観光の振興、交流およびシティプロモーションの推進 ○酒田観光戦略推進協議会における誘客推進 ・既存イベント、まちあるきツアー等のブラッシュアップ</p> <p>※これまで、日本酒をメインコンテンツとしたイベントを開催していますが、今後もブラッシュアップを図りながら取り組んでいきます。また、酒田ラーメンを核とした誘客についても検討します。</p>
<p>人口減少は止まらない流れとなっているが、<u>戦略的にターゲットを絞って、「酒田市はこの年代でこんなサービスがある」というような発信ができないか。ライフステージに応じて、戻るきっかけ、情報を提供できるようにすれば良い。</u></p>	<p>【反映先】 II-2-(1) 総合的な移住支援の継続とターゲットに合わせた情報発信 ○移住検討者と本市をつなぐプログラムの検討 ・移住相談者のニーズを分析した移住体験ツアーの検討 ○移住検討層に対するターゲットに応じた戦略的な情報発信 ・移住専用サイト、メディアの活用による積極的なPR</p> <p>※若い世代又は子育て世代を対象とした施策と情報発信について検討します。</p>

委員からの主な意見	総合戦略への反映状況
<p>吉祥寺テラスがある武蔵野市において、<u>酒田市が主催するイベントが1～2月の間で何度か実施されている現状がある。1つにまとめることによってコストカットにもなるし、もう少しインパクトのある発信ができるようになるのではないか。</u></p>	<p>【反映先】 II-3-(1) 観光の振興、交流およびシティプロモーションの推進 ○国内外の姉妹都市・友好都市等との交流の推進 ・「関係人口」の創出に向けた都市農村交流事業等の検討</p> <p>※イベントを一つにまとめることについては、その事業目的等を整理しながら検討します。</p>
<p>場所に関係なく全国どこでも働くことは可能。企業誘致はハードルが高いと思われるが、<u>働くスペースを首都圏の企業等に提供することによって職員を派遣し働くことができるような取り組みも検討してはどうか。5年スパンでできることは限られているが、2060年を見据え少しずつステップアップしていけるよう取り組んでいければよい。</u></p>	<p>【反映先】 I-3-(1) Society5.0を見据えた「働き方改革」の推進 ○産業振興まちづくりセンター（サンロク）による総合的な支援 ・テレワークを活用した就労の推進 ・コワーキングスペースの運営【再掲】</p>
<p>市の広報やSNSが、なぜ若い世代に届かないかと考えると、<u>職員を適材適所に配置できていないからではないか。行政（職員体制）の在り方から変えていく必要がある。奈良県の自治体で、民間企業からプロの人材を配置しているところがある。また、副業や兼業、テレワーク等も同時に推進し、募集についてもハローワークだけでなく、有名な就職サイトにも掲載したと聞く。参考にすべき。</u></p>	<p>【反映先】 II-3-(1) 観光の振興、交流およびシティプロモーションの推進 ○若い世代にも対応した広報の充実 ・SNS等を通じたタイムリーで適切な情報発信</p> <p>※人事制度に関わる内容のため、戦略には反映しませんが、ご指摘の職員体制のあり方、民間企業からのプロ人材の配置、副業・兼業、テレワーク、募集方法の視点については、今後検討します。</p>
<p>子育て世代が住みやすい環境を整えることが重要。三川町や遊佐町は子育てに優しいというイメージを若いママ世代は持っている。誕生祝い金や小学校入学時のランドセル支援等を実施しているため。また、長井市で取り組まれているベビーボックスプロジェクトも非常に良いと思う。その他、上市市や天童市、南陽市では、<u>住民税のキャッシュレス決済にいち早く対応するなど、若い人に向けたアンテナを張り巡らせている。</u></p>	<p>【反映先】 IV-2-(4) Society5.0を見据えた「くらし改革」の推進 ○キャッシュレス決済の導入 ・市の公共料金支払いへのキャッシュレス決済の導入に向けた検討</p> <p>※誕生祝い金、ランドセル支援、ベビーボックスプロジェクトの導入については、費用対効果などを見極めながら検討します。</p>
<p>子育てをしながら企業に属して低賃金・フルタイムで働くこと、疲弊してしまう。自分のペースで働くことができれば、育児、仕事以外にも気分転換することができることから、<u>フリーランスで働く方への支援を考えるべきだ。先ほどのママ人材バンクがもし実現すれば、ぜひ登録したい。おしゃれなコワーキングスペースが市内にできているので活用しているが、フリーランスと企業とのマッチング支援等もあると良い。</u></p>	<p>【反映先】 I-3-(1) Society5.0を見据えた「働き方改革」の推進 ○産業振興まちづくりセンター（サンロク）による総合的な支援 ・コワーキングスペースの運営【再掲】 ・マッチング支援、ビッグデータの活用、RPAの導入による生産性の向上 ・テレワークを活用した就労の推進</p> <p>※フリーランスで働く方への支援、企業とのマッチングについて検討します。</p>
<p>東北公益文科大学は、<u>県立化されれば、全国に誇れるブランドになる。また、看護学科、福祉学科といった学部の増設も考えられるのではないか。学部が増設されれば、例えばだが撤退が決まっている民間宿泊施設を市が買い上げ、公益大1年生向けの寮にしてはどうか。多様な学科の学生と一緒に生活することは魅力向上につながる。</u></p>	<p>【反映先】 II-1-(1) 東北公益文科大学との「大学まちづくり」による定住促進 ○東北公益文科大学の公立化の検討</p> <p>※学部の増設については、将来的な検討事項と捉えています。</p>
<p>子供食堂の取り組みは徐々に進んでいるところだが、それに加えて<u>寺子屋のようなイメージで学校の授業の復習・宿題等を教える取り組みが展開できないか。放課後に英語を教えているコミ振もある。</u></p>	<p>【反映先】 III-2-(1) 子どもを産み育てやすい環境づくり ○妊娠・出産・子育てに対する不安や負担感の解消 ・子ども食堂や無科学習教室等、地域での子育て支援活動への支援</p>
<p>海産物でも特定の市内企業の名産品でも何でもよいと思うが、<u>何かに特化した形でのPRを検討すべきである。</u></p>	<p>【反映先】 I-2-(3) 恵み豊かな資源を活かす水産業の振興 ○水産資源の確保とブランド化 ・「いかのまち酒田」としてPRによる水産業全体の活性化と市内産業への波及</p> <p>※上記のPRは一例であり、あらゆる分野において、他地域にはない本市の強み（地域資源）に特化した戦略的なPRについて検討します。</p>
<p>北九州市で<u>洋上風力発電を頑張っている。庄内浜も最高の立地条件と言われているので、ぜひ推進するべきである。</u></p>	<p>【反映先】 I-1-(2) 港の物流機能を活かした産業競争力の強化 ○地域と協調した民間洋上風力発電の整備に向けた検討 ・酒田港のエネルギー基地としての拠点化に向けた取り組み</p>